

綾川町立学校等再編整備調査特別委員会

このたび、当委員会の委員長に就任しました。まず委員会の定義の再確認を冒頭で行いました。以下がその発言です。

綾川町の学校等再編整備については全国的に子どもが減っている状況を踏まえ、将来的な施設規模を検討する考えから始まりました。その過程で統合に関する課題の調査を行い、影響を受ける、子ども、保護者、地域住民に対して、実態を伝え、意見を聞き、徹底した議論を行った上で、一連の施策に反映していくことが当委員会の目的となっています。学校等再編に直接、または間接的に関係する全ての事柄は当委員会での議論対象となります。

また、様々な調査や意見聴取、報告の必要があれば、特別委員会設置の趣旨に従い、当委員会を中心に行っていきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いします。最後に、子どもの教育に関連する事柄は、現在の行政が担う仕事の中では数少ない未来投資にかかるもので、過去においても教育の質と量が、繁栄発展を支えてきたことは誰の目にも明らかな歴史的事実です。次世代の住民に対して、責任を全うできる議論をお願いいたします。

学校統合特記事項

・決まった学校統合の日付はありません。・綾南中学校改築は耐震工事の一環。完成≠統合。

学校統合による地域衰退のダメージは、町内全域に悪影響を及ぼします。

まず議論するべきは、いかに人を増やし、町の活性化を図っていくかで、どう統合するなどと言う話は、統合が決まってからでも遅くありません。

現段階で綾上中学校、羽床小学校(同保育所)の統合について、年数が明記された統合の決定事項はありません。

Q&A ◀ ダイジェスト版・完全版はブログにて公開中

厚生委員会▶ダイジェスト版・完全版はブログにて公開中

Q: 子ども・子育て支援新制度に平成27年度に全て移行するのか？また住民側での変化はあるのか？

A: 公立では全て移行する。保育所幼稚園等、対象の区分認定をしてもらうようになる。

Q: ゴミの焼却灰の処分で、コンクリートに混ぜて処分する手法があるが、行わないのか？

A: 高松市と検討する。

Q: 滝宮保育所の水回りなど、現在の保育ニーズ等に合致していないという話も聞いている。保護者目線では老朽化は否めない。まずは直接見ることが重要であり、次回の現地踏査で滝宮保育所を入れていただきたい。

A: 指摘のことはある。できる限りの補修を行っている。長期的視野による今後の検討課題としたい。

委員長：施設訪問、現地踏査をしていきたい。

一般質問▶ダイジェスト版・完全版はブログにて公開中

Q: 独自性を発揮する教育は

A: 次世代の地域人材の育成

Q: 「土曜授業」など、独自性のある教育手法および内容は、よりよい教育を求め、他地域との差別化の手段となる。

具体的な内容では、これからの「国際化」に向け、国語を中心とした日本教育の充実強化を行い、日本人とは何か？それに答えられる教育の実施を求める。

情報教育の充実では、情報倫理の徹底が必要。携帯電話等の普及により緊急の課題です。

A: 「土曜授業」は中・長期的視点に精査していく。

「国際化」へ向けて、世界の中の日本のよさを学ぶ機会を教科学習と地域学習を工夫し充実を図っていかなければならぬ。情報機器の活用も含め、相手意識をもち、人とのつながりの質の向上を図る。情報倫理では、県機関の活用を行い、繰り返し学びの場を設定する事が大事。携帯電話等のトラブルでは学校評価委員からも、様々な情報提供がある。

Q: 古文書等のデジタルアーカイブ

A: 一部資料のデジタル化を開始している

Q: 町が所有する古文書等の文献をデジタル化し、保存、公開しないか？また、特に貴重な資料については財源確保の見地から有料にできないか。

A: 独自資料である「滝宮ばやし」のデジタル化が行われており、電子図書化も可能。また、国立国会図書館のデジタル化資料が利用可能で、宮武外骨関連等が当町の図書館専用端末で閲覧＆複写可能。料金徴収は今後の検討課題としたい。

広報・企画の独立は…

Q: 広報企画業務の専任化や外部委託、また課を超えての連携を念頭にした対応は。

A: 「第2次綾川町行政改革大綱」等で行政経営の視点から、定員管理や組織機構の適正化に努めているところである。

計画の中で、事務事業全般で民間委託を含め、効果的且つ効率的な組織の見直しの検討を掲げている。今後の検討課題としたい。